

W3C Media Content Metadata Japanese CG 第 12 回会合 議事録

■ 日時：2025 年 6 月 26 日 11:00～12:00（オンライン開催）

■ 出席者：岸上・芦村・吉澤(W3C) / 星野(ACCESS) / 出野(オムロンソフトウェア) / 西尾(エム・データ) / 富倉(講談社) / 丸山・杉村(集英社) / 五藤(TBS) / 出葉(LG Japan Lab) / 下花・津田(ジョルテ)(記) / 大亦・藤井・遠藤(司会)(NHK) (敬称略)

■ 議事：

- はじめに(遠藤) 議事録確認

6/25 作成した議事録は承認。

今回の議事録作成はジョルテ津田が担当。

- Interop レビュー

W3C ブース展示概要のご報告（遠藤）

W3C ブースでは広いスペースを借りて展開。1 から 6 までの項目に分けられた検証デモンストレーションや、A0 サイズの大きなパネルが展示。(協力企業：ジョルテ、ACCESS、オムロンソフトウェア、小学館、エム・データ様(裏側全体で連携)、NHK、集英社、講談社、角川(放送のメーター関連でデータ提供))

イベンティア(ジョルテ)

イベントと書籍の発売日という関連性だけでなく、地域情報や祭り、その他のテレビ番組情報など、より多様な関連情報が紐づけられると良かった。今回の取り組みに参加している方々が集まる良い機会となり、連携のアイデアが生まれる場になったことを評価。(下花)

3 日間イベントに参加し、来場者の反応は概ね良好で分かりやすかった。しかし、イベント情報と出版物の連携については、来場者がイメージしにくい部分もあった。今後は、観光業などイベントに近い業界の方々にも見てもらえる機会を増やしたい。(津田)

車載システム(ACCESS とジョルテの共同展示)

来場者から「聖地巡礼」というキーワードが出たことが印象に残っている。コネクテッドカーにおいてキラーアプリがまだ登場していない現状で、今回のような異業種連携による新しいアプリや MaaS (Mobility as a Service) などの可能性に期待を寄せています。インバウンドの外国人観光客がレンタカーなどでその場所を訪れるといった新しい世界観が生まれる可能性。(星野)

出版・放送の固有名詞 IME(オムロンソフトウェア)

来場者だけでなく、プロジェクト内のコミュニティでコミュニケーションができたことが非常に良かった。デモに関しては、地味ではあったものの、説明を加えることで来場者に理解してもらえた。今後の展望としては、今回のデモが固有名詞の文字入力に留まったため、さらに面白くするためには、メタデータとして他のコンテンツと連携するなど、より発展的な取り組みが必要だと感じた。(出野)

検索サイトでのタイトル補完 IME(オムロンソフトウェア)

個別最適化というニュアンスが強いと補足しました。コンテンツを魅力的に表示するために、正しいコンテンツを検索サイトだけでなく、他の場面でも応用できる。(出野)

コンテンツプロモーションにおけるメタデータ活用(小学館)

小学館のサイトでトピックに基づいた書籍推薦が行われており、アニメや映画といったメディア展開の情報を効率的に取り込みたいというニーズ。エム・データの放送メタデータを活用で、番組で紹介された書籍情報を検出し、既存の推薦システムに反映。書籍ページから購買へ繋げたり、どのようなメディアミックス情報に基づいた推薦なのかを示すことで、視聴者の興味共有を図れる。

電子書籍のメタデータ活用デモ(NHK)

E-Pub リーダーで電子書籍を開き、空白部分を長押しすると、電子書籍のメタデータが表示される機能。夏目漱石の作品を例に、番組表のデータだけではヒットしにくいテレビ番組が、エム・データ社の商品情報と組み合わせることで関連番組をヒットさせられる。異なる業界が持つ複数のデータを組み合わせることで、他の産業にも有効活用できる可能性。

Interop ブース感想

これまでの業界の垣根を越えたメタデータ連携による新しいサービス提供の可能性に大きなビジネスチャンスを感じている。テレビでの扱い方については検討が必要なものの、基盤が構築されれば、HTML などウェブページのように表示系でサービスを受けられるようになる。このようなコラボレーションで新しいサービスが生まれ、テレビでもそのサービスを受けられるようになることを期待。(出葉)

活動が多岐にわたるため、全体像が見えにくくなる可能性。マインドマップを活用し、各活動の関係性、メタデータのユースケース、協力企業の貢献などを可視化。現状では各社が独自にメタデータを扱っている部分が多いため、今後どのようにメタデータの相互運用性や融合を進めるべきかについて、MCM-JP CG 内で議論が必要。表記の揺れを修正し、正確な情報を出力する今回の取り組みにおいて、AIを導入した場合の効果や具体的な方法についても検討する必要。現在の活動規模はMCM-JP CG の枠を超えているとも感じられており、共同でニュースリリースを出すことを考えてみては？(岸上)

ブース全体での CG デモの紹介導線や、セミナーコーナーからデモコーナーへの効果的な誘導が不足していた。多様な業界連携によるメタデータマッシュアップの可能性に言及し、さらに IoT、スマートビル、スマートシティといった大規模な連携へと発展させるべき。(芦村)

業界連携の取り組みが来場者からも高く評価。技術を通じて業界の垣根を越え、エンドユーザーが幸せになるメディアが実現できる可能性を感じた。ミニセミナーの紹介方法に関して、開催の数時間前からの告知や別の訴求方法を検討すべき。(吉澤)

Interop は元々「インターオペラビリティ(相互運用性)」の意味。まさにそれを体現できたデモだったと評価。来場者の中には裏側のデータや仕組みに興味を持つ詳しい方もいたため、今後は裏側の仕組みをもう少し見せる工夫が必要だと感じた。CG (コミュニティグループ) が立ち上がって1年が経過した今、次の1年では、データをどのように「エクステンション (拡張)」していくかに焦点を当てて進めていきたいとの抱負。(大亦)

放送業界、出版社、新聞社、メーカーなど多様な業界との具体的な情報交換や、コミュニティグループ (CG) への参加検討の動きが見られ、活動拡大の可能性。新しいメンバーを呼び込むためには、取り組みの詳細な記録 (データ交換プロトコルなどを含む) を公開し、技術的な深掘りと魅力的なアピールの両面から戦略を立てることが重要。イベントを通じて社内外での取り組みへの理解と納得感が高まったことを実感。(遠藤)

- 新 CG メンバー、初参加者の紹介

(集英社 杉村)

今年の 4 月に入社。前職はシステム系。現在は電子コミックの営業部署に所属。電子コミックの売上拡大のため、社内システムや社外との連携を担当。
当グループに参加して、様々なメディアを組み合わせ、コンテンツをより広げていくメディアミックスビジネスの可能性を感じた。

(TBS 五藤)

番組の技術制作を担当。デジタルやデータの領域から少し離れている。番組コンテンツに紐づくメタデータの活用を模索。過去にはオムロンソフトウェアの出野様にも相談した経緯もある。Interop では、サービスやビジネス展開を想起させる内容に関しては社内確認が必要となる部分があり、メタデータにビジネス要素が加わると各社の連携が難しくなる。メタデータ版の情報銀行のような構想を提案したい。第三者の独立機関を設立し、そこに各事業者が決められた形式でメタデータを集約し、必要な事業者がそこからメタデータを取得して活用。

- 今後の活動計画

CG レポートへの反映:

今回のイベント内容を CG レポートに反映させる予定。これには検証に関わった方々の協力が必要となるため、具体的な進め方については今後相談していく。

TPAC での発表検討@神戸 (2025/11/10 - 14) :

W3C の年次会合である TPAC で、今回の展示内容を発表することを検討。発表形式（そのまま、膨らませる、単純化など）については様々な選択肢があり、また TPAC が国際的な有料会議であることから、芦村先生とも相談しながら進めていく意向。TPAC での発表についてアイデアや質問があれば、改めてメールでフィードバックを求める。

- 次回会合について

次回の会合は、1 週間後ろにずらして 7/31(水) 16 時より、ハイブリッド形式での開催を予定。場所は青山で、Interop のお疲れ様会も兼ねることを考えている。